

平成 29 年 12 月 27 日

## 12 月の木材価格・需給動向

### 1. 国産材(北関東)

11 月は天候も回復し、栃木県では出荷のピークを迎え、12 月現在も丸太入荷は順調である。特に八溝地域で皆伐施業により生産量が増加。製材工場の在庫が少なく、県南の新工場が本格稼働し、品薄感が続いている。スギ材は引合いが増え、値上げ傾向にある。需要の多いスギ 3.0m 柱材やヒノキ 4.0m 土台取りを中心に値上がり基調。県内外の製材工場が手当を進め、ヒノキ良材、スギ大径材を中心に高値で取引されている。

群馬県では製材工場の原木入荷は順調だが、需要旺盛のため原木価格が上昇している。スギ、ヒノキともに 4.0m14~20cm の原木が少ない。細かい受注が多いため全体的に忙しく、年末に向けた対応に追われている。製品在庫は殆ど無く、特にスギの 3m105 角、4m90 角、4m105 角、ヒノキの 4m105 角が品薄である。価格は全般的に低位安定状態にあるが、スギ・ヒノキ角類は前月の約 3,000 円に続き、2,000 円程度の値上げ。

### 2. 米材

米加北西部では通常伐採であるが、伐採回復前の港頭在庫激減の影響は大きく、在庫の積上げには至っていない(特にカナダで深刻)。ウェアハウザー社の 12 月積み対日価格(推定)は前月比\$50 アップの\$1,010 で、5 カ月連続の上昇となった。年初からの上げ幅は尺上\$160、尺下\$180。産地製材品価格も高値で推移し、製材工場の製材意欲は旺盛なため原木の需給バランスは崩れたままである。12 月は休暇シーズンで伐採増加は期待できず、1 月も価格上昇が予想される。11/2 に米商務省からカナダ産製材品に対する相殺関税・反ダンピング関税の課税に関する最終税率は 20.83%と発表されたが、ITC(米国国際貿易委員会)による最終決定が 12/18 までに出される予定。ランダムレングス紙の 15 種平均価格(12/1)は\$436/M で 11 月頭に比べ 1.1%アップ。

10 月の原木入荷量は 180 千 $m^3$ と低調、1-10 月累計で 2,210 千 $m^3$ (前年同期比 7.6%減)、出荷量は 210 千 $m^3$ で 1-10 月累計では 2,258 千 $m^3$ (同 4.0%減)となり出超。在庫量は前月に比べ 29 千 $m^3$ 減の 201 千 $m^3$ となり、在庫率は再度 1 カ月を割った。国内最大手の米材製材工場が 11 月最終週より実質値上げを実施。

10月の東京木材埠頭の米材製材品入荷量は25千 $\text{m}^3$ (前月比27.4%増)、出荷量は32千 $\text{m}^3$ (同1.5%増)、在庫量は49千 $\text{m}^3$ (同6.9%増)。現地価格の値上げもあり、米マツ製品の在庫の買いは旺盛で在庫は減少傾向にある。

### 3. 南洋材

サバでは依然天候が悪く、港頭在庫は現時点でも非常に少ない。サラワクも同様で在庫が少なく、本格的な雨季に入るため出材回復は期待できない。PNG、ソロモンは慢性的に天候悪く、当地区から購入している中国の港頭在庫が少ない上、旧正月前の駆け込み買いが強まり、価格は暴騰中。インドネシアも天候不順で原木伐採は低調。12月推定の原木入荷量は約13千 $\text{m}^3$ 、出荷は15千 $\text{m}^3$ で横ばい、在庫は今後も減少。製品入荷も少ない。フリー板の市況が今ひとつ、平割は低位安定、鋼材用梱包材は変化なし。デッキ材が比較的好調。

### 4. 北洋材

冬山伐採期に入り、搬出は12月後半から予定。産地では原木取合が続き価格は高止まりのまま。輸送コストも高止まりで貨車不足が深刻な状況。原木輸出価格はアカマツ、カラマツが品薄で強保合、現地挽き完成品は底を打ち、アカマツ原板は供給足りず\$380で強保合。現地挽き3cm×4cmの在庫は減り、価格は底打ち、3mタルキも多少動きが戻った。10月原木入荷量は6.7千 $\text{m}^3$ (前年比11.7%減)、出荷量4.3千 $\text{m}^3$ 、在庫量は20.7千 $\text{m}^3$ の2.03カ月。製品入荷量は42.8千 $\text{m}^3$ (同5.3%減)、関東の製品在庫は減り、底値感が広がりつつある。

### 5. 合板

国産材は相変わらず需要旺盛。東北地区の長雨の影響でスギが不足気味。ロシア材の出材は低調で12月以降の船も取りづらく強含み。米材は原木在庫が増えず、数量確保が困難な状況で価格は相当な強気状態にある。南洋材の出材は若干持ち直しているものの低水準の域を出ておらず、価格も依然強い。10月の国内合板生産量28.0万 $\text{m}^3$ のうち針葉樹合板は26.8万 $\text{m}^3$ 、出荷量は27.3万 $\text{m}^3$ と生産、出荷量とも過去最高を記録した9月をさらに上回る水準となった。在庫量10.1万 $\text{m}^3$ のうち構造用合板は8.4万 $\text{m}^3$ と低水準の状態が続いている。輸入合板は薄物、塗装合板、ラワン構造用9mmの不足感が続いており、普通合板全般でも少なくなっている。国産針葉樹合板の12月販売価格は横ばい。大手プレカット業者を中心とした直需店の需要の衰えはさほど見られず、また12月はトラック不足の問題から品不足への警戒感もあり、価格の乱れも考えられないだろう。10月の合板輸入量は前月より1.5万 $\text{m}^3$ 増の23.2万 $\text{m}^3$ で予想以上の輸入量となった。産地インドネシアの各サプライヤーは日本向け供給量を限定するところも出ている。マレーシアでは各工場とも原木状況は厳しく、日本向け受注残の解消も進んでいない。これから冬場に入り、国産

針葉樹合板の生産効率が落ちてくるが、新設住宅着工もやや陰りが見えており、需給バランスは維持され、現状のまま推移するものと見られる。輸入合板は数多くの不足アイテムと現地の高値情報を踏まえると、しばらくは強気の展開が続いていく模様である。

## 6. 構造用集成材

11、12月ともラミナの入港は順調。ラミナ高騰を背景に国内メーカーではRW平角の値上げが着々と進められており、採算ラインと見られる63,000円/m<sup>3</sup>(3m、4m)にはもう一步だが、WW管柱は目指す2,000円/本になかなか届いていない。高コストのラミナが入荷する年明けには平角、管柱とも、さらに一段の値上げが予想される。国内メーカーの受注は好調であり、RW梁桁の荷動きは良いが、WW柱・間柱は鈍い。メーカーは梁桁の受注残があり、12月も販売好調を維持している。梁桁のメーカー在庫は少ない。輸入集成材のWW管柱、間柱は在庫が多く、入港が減少傾向にある。RW平角の荷動きは活発で全国的に品薄感がある。

## 7. 木材チップ

チップ原木の入荷は地区で増減はあるが、相対的に減少。解体材入荷は例年並み。製紙用は国内針葉樹チップの使用量増加で、徐々に上向き傾向。燃料用ではバイオマス発電は年末年始概ね稼働が多いが、製紙用は受入と受止めに分かれている。製紙用針葉樹チップの在庫が減少し、在庫確保に動いている。燃料用は自然体の状況。製紙用の原料確保を進めているチップ工場では操業度が高いが、建廃系はバラツキが多い。

## 8. 市売問屋

構造材は増改築用のKD材が動いており、スギKD材(4m90角、3m105角)は不足気味。外材構造材の荷動きは悪い。造作材は国産材、外材とも材木店の仕事量が少なく荷動きは悪い。製品市場へ入荷は少ないが、製品の不足感は見られない。時期的にこれから材の入荷が減少するものと見られる。

## 9. 小売

スギKD柱・小割・板割、ヒノキKD柱・土台は保合。外材はアカマツタルキは保合、米ツガ角・平割とも品薄で強保合、SPFは強保合、WW間柱は保合。造作材ではスプルー、ピーラー平割保合、タモ平割強保合。集成材はWW柱・梁、RW梁・柱ともに保合。合板は針葉樹合板が保合、ラワン合板輸入品は強保合。ポプラLVLは強保合。パーティクルボードの不足が激しく、来年1月まで供給不足が続く見込みである。

12月の需給・価格動向

1. 主要外材入出荷在庫量

		入荷量	出荷量	在庫量
米材	丸太	↘	→	↘
	製材品	→	→	→
北洋材	丸太	→	→	→
南洋材	丸太	↘	→	↘
	製材品	→		

矢印の表示は今月に対する翌月の動向を、下記の様に示したものである。

- ↑ 急増・急上昇
- ↗ 増加・上昇
- 横ばい
- ↘ 減少・低下
- ↓ 急減・急落

2. 合板供給量

国内製造量	輸 入 量		
	計	インドネシア	マレーシア
→	→	→	→

3. 価格動向

樹材種	形 状	取引条件	樹種・寸法等	動向
国産材	丸太	卸売価格 (北関東、県内産 市場土場渡し)	スギ柱材(3m)2等	→
			スギ中丸太(3.65m)2等	→
			ヒノキ柱材(3m)2等	→
			ヒノキ中丸太(4m)2等	→
	製材品 (関東近県産 板は東北産)	首都圏・市売り 価格	スギ柱角(KD)10.5×10.5×3m 特等	→
			スギ柱角(KD)12.0×12.0×3m 特等	→
			スギ間柱(KD)10.5×3.0×3m 特等	→
			スギ加工板1.3×18.0×3.65m 特等	→
			スギタルキ3.0×4.0×3.65m	→
			ヒノキ柱角(KD)10.5×10.5×3m 特等	→
ヒノキ柱角(KD)12.0×12.0×3m 特等	→			
ヒノキ土台角12.0×12.0×4m 特等	→			
米材	丸太	産地価格	米マツ ISタイプ	↗
		国内卸売価格 (京浜・オントラ)	米マツ ISタイプ コースト	↗
	製材品 (カナダ産・ 現地挽き) (国内挽き)	東京・問屋店頭 渡し価格	米ツガ桁角(KD) Std&Btr S4S 10.5×10.5×4m	↗
			米マツ桁角(GR) Std&Btr S4S 4・1/8” 13’	↗
		米ヒバ土台角(GR) Std&Btr 4・13/16” 13’	↗	
		米マツ平角(KD) 特等 10.5×24.0×4m	↗	
南洋材	丸太	産地価格	メランティレギュラー	↗
		東京・水面筏 渡し価格	メランティレギュラー 60cm上、4m上 製材用 メランティレギュラー 60cm上、4m上 合板用	→
	製材品	産地価格	ホワイトセラヤ 平割(サバ州産)	↗
		東京・問屋店頭 渡し価格	同上2.4cm×込み×4m 定尺1等	→
北洋材	製材品	国内卸売価格 (京浜・オントラ)	アカマツ(KD)30×40上級	→
			アカマツ(KD)16×40上級	→
欧州材	製材品 (現地挽き)	東京・問屋店頭 渡し価格	ホワイトウッド 間柱 2.7×10.5×3m S4S FOHC	→
			ホワイトウッド ラミナ 2.4×11.0×3m上 ラフ乱尺	↗
集成材	国産	東京・問屋店頭 渡し価格	ホワイトウッド 無化粧 JAS 5プライ	→
			スギ 無化粧 JAS 5プライ	→
	欧州産	//	10.5×10.5×2.98m	→
合板	国産	東京・問屋店頭 渡し価格	タイプ2 F☆☆☆☆ 2.3mm厚 3×6	↗
			タイプ2 F☆☆☆☆ 4.0mm厚 3×6	↗
			型枠 12.0mm厚 3×6	↗
			針葉樹構造用 12.0mm 3×6 F☆☆☆☆	→